

甲府一高東京同窓会

会長 清水 昭

2026年7月11日

TOKYO 2026

第66回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

2 会長挨拶

甲府中学・甲府一高東京同窓会

会長 清水 昭



皆様ようこそ 東京同窓会に
お越しくださいました。
古屋高一当番幹事長、昭和62
年卒当番幹事の皆さんと共に
心より歓迎申し上げます。

- 本日は母校から 大久保雅司校長先生と教職員の皆様
母校同窓会より 末木浩一会長と役員の皆様
- 山梨大学より中村一彦学長先生をご来賓としてお迎え
しております。 錦上に花を添えて頂いております。
ありがとうございます。
- 東京同窓会は 会員相互の親睦を図り、併せて母校の
充実と発展に寄与することを目的としています。
- 目的達成のためにご尽力いただいております、会員諸
氏の皆様に対しましても深甚の謝意を表します。

甲府中学・甲府一高東京同窓会について

- 我々東京同窓会は、昭和35(1960)年5月20日午後6時 新装なった上野精養軒 新館大ホール 紫煙の間 において産声を上げました。
- この席には病を押して齢76歳の石橋湛山（明治35年県立山梨第一中学校（以下一中）卒）元首相が奥様に 付き添われて参加されておられます。
- その後13年間 日本が国際社会の中でどのような道を歩むべきか問い続けました。今こそ必要な賢者であると思います。ご存知ない皆さんに石橋先輩を紹介します。

石橋湛山先輩

1. 戦前の言論活動：リベラリズムの体現

『東洋経済新報』の記者・主幹として、国際協調、民主主義、自由主義の立場から先駆的な論陣を張りました。

小日本主義の提唱: 植民地（朝鮮・台湾など）の放棄を主張し、帝国主義的な領土拡大を否定しました。

民主主義・平和主義の推進: 普通選挙の導入や女性の権利擁護、軍縮、大正デモクラシーの時代における民主的な社会変革を訴えました。

経済評論: 国際的な視野から経済問題を分析し、グローバルな視点を持った政策提言を行いました。

石橋湛山先輩

2. 戦後の政治活動：大蔵大臣～内閣総理大臣

戦後、インフレ抑制と生産拡大を目指し政界入りしました。

「石橋財政」の推進: 第1次吉田内閣の大蔵大臣として、傾斜生産方式（石炭増産など）や復興金融金庫の活用による経済再建を推進しました。また、進駐軍経費の削減をGHQに要求し、実際に削減を勝ち取るなど、日本の経済的自立のために奔走しました。

石橋内閣（第55代内閣総理大臣）：1956年に自由民主党総裁に選出され、総理大臣に就任。しかし、健康問題を理由に在任わずか65日で退陣しました。

石橋湛山先輩

3. 退陣後の外交活動：冷戦克服と国交正常化

総理退陣後も、13年間世界平和の実現に向けて精力的に活動しました。

自主外交の展開：「日中米ソ平和同盟」を提言するなど、冷戦の対立構造を乗り越える外交を目指しました。

日中関係の改善：中華人民共和国を訪問し、毛沢東や周恩来らと会談。1959年の「石橋・周共同声明」など、後の田中内閣による日中国交正常化への基礎を築きました。石橋湛山は、戦前・戦後を通じて一貫して平和と自由を尊重しつづけた政治家でした。

東京同窓会の歩み

- 東京同窓会は 会員相互の親睦を図り、併せて母校の充実と発展に寄与してこられました、会員諸氏の皆様方のご尽力に対しまして 深甚の謝意を表します。初代会長 森 武臣氏（大正9年山梨県立甲府中学校）2代目 水上達三氏（大正11年甲中卒）その後 吉田富士夫氏、渡邊喜一氏、恩田 宗氏、井上幸彦氏が代々会長に就かれておられます。
- 平成19年（2007）から会長、令和元年(2019)から最高顧問として、長年温かく、かつ力強く 東京同窓会を支えて下さいました。ここで同窓会でのスナップをご覧ください。

井上幸彦会長
於東京会館

2012年7月 甲府一高東京同窓会懇親会



井上幸彦最高顧問から

- 今年5月の役員会には参加が叶わず、皆様に宜しくとのお電話をいただき、回復して今日の総会への参加を楽しみにしておられました。今月に入り、入院先の病院でご逝去されたとの未公表情報が同級生の中村芳文さんからあり、
- 真相を掴みかねているところ、ご覧になった皆様も多いと存じますが、5日午後9時より、NHKスペシャル「私の往生際 養老孟司さんが見つめた“生と死”」を見た後、どうされているか心配になり、井上先輩にお電話を入れましたが、返答はありませんでした。8日になり、古屋当番幹事長から、一斉報道がされたとのメッセージがあり、ご逝去を受容した次第です。

ここで皆様と黙とうを致したいと思います。

- 黙とうを終わります。

井上幸彦最高顧問とは

- 東京同窓会以外にも、定期的にいくつかの会合でご一緒させていただいておりました。井上先輩の挨拶の中に、詩人である坂村真民（愛媛県で高校教師を定年までされた後も、97歳までお亡くなりになるまで、1日も休むことなく詩作を続けられ、その数は1万篇を超えている）の詩を紹介されていきました。その詩の中から数篇ご紹介して、最高顧問に想いを馳せ、感謝の気持ちを伝えたいと思います。
- 因みに、東日本大震災の翌年の2012年3月11日に愛媛県砥部町に坂村真民記念館が開館しましたが、開館の維持が出来ないという理由で今年の9月に閉館が決定しています。このことも悲しみに耐えません。

二度とない人生だから

二度もない人生だから

輪花

無限の愛

三、

一羽の鳥の舌に

熱心耳

かたむけのケミ

二度とない人生だから

てかゝるべき事

زینہ و سیدہ خاتون

23 June 2002

あてがひ

A
B

⑤ 流水無聲

流水無聲

一箇

飛んでくる

水の音

流れてくる

流れてくる

水の音

身軽に

生きている

水は流れてくる

この二つを 坂村真民

少食であれ！
これは健康のもと。
少欲であれ！
これは幸福のもと。
この二つのものを
しっかりと身につけよう。
この世を悔いなく終わるため。
この世を楽しく生きるため。



結びとお願い

- この後は、皆さんで縦横の絆を深めていただきたく、
- 飛び切りの笑顔で大いに語りあかしてください。
- 宜しくお願い申し上げます。